

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	VENOM SHOCK		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.480	△RG	0.034	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：VENOM SHOCK

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：VENOM TOXIN

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

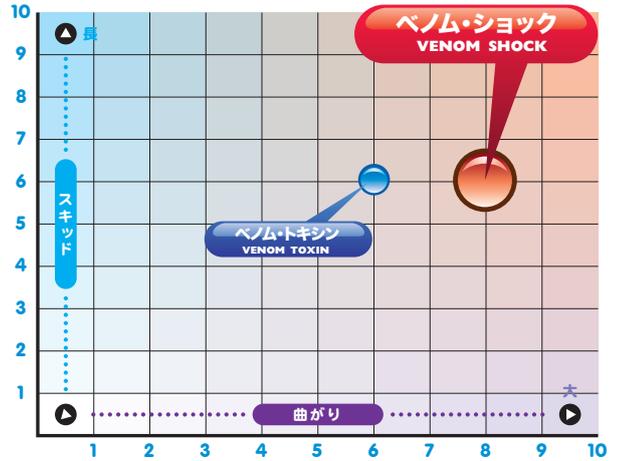
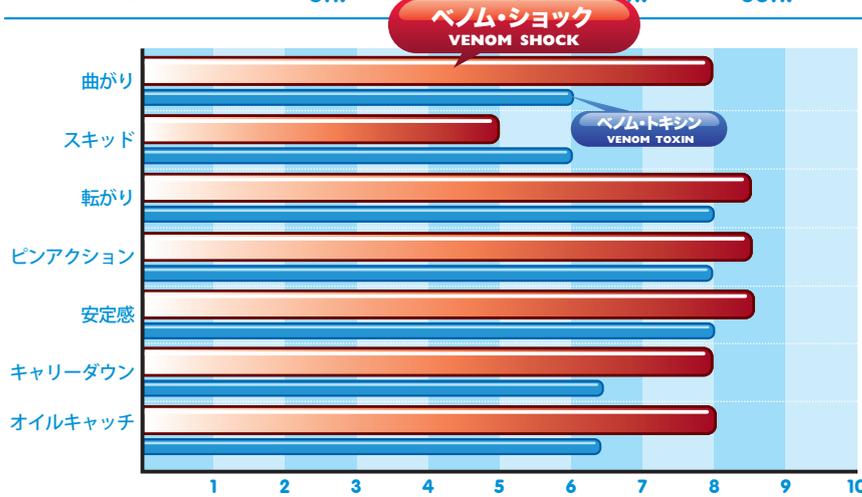
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

先月発売された”COVERT REVOLT”は発売前から話題性が高く、発売と同時に15Pは完売。実際投げているボウラーのパフォーマンスに魅せられ、問い合わせが殺到しています。PBAツアーをはじめ世界的にも多くのボウラーがMOTIV社のボールに着目している中、GT1から受け継がれる”Gearコア”を搭載したVENOMシリーズの最新作、”VENOM SHOCK”がリリースされます。なんとと言っても注目はREVOLTと同系のカバーストック”Turmoil™ MFS (Medium Friction Solid) Reactive”が採用されていることでしょう。REVOLTに使用されているカバーストックはTurmoil™ HFS(High Friction Solid) Reactiveですので、VENOM SHOCK”のMFS”カバーストックはややキャッチを抑えたバージョンであるということが読み取れますが、実際にREVOLTやVENOM TOXINと比較投球してみると、HFSとMFSカバーの差は多角的に影響度はあまり感じられず、物理的フリクション(表面加工の違い)の差のイメージの範囲内だと私は感じました。それはREVOLTとVENOM SHOCK双方を同じ番手のポリッシュ加工にした場合、コアの特性の違いは感じてスキッドとキャッチのイメージは双方とも変わりなく、共通して感じられたのは「ポリッシュ加工でもキャッチする」系統のカバーであるということ。MOTIV社のカバーストックはさらに進化を遂げ、クルーエル等のWhiplash ReactiveやプライマルインパルスFusion Pearl Reactiveと比べても、はるかに上質に仕上がったことがPBAツアーでの使用率の高さであったり、日本での人気の急上昇でもあると再認識させられます。Gearコアの手前からの転がりの良さは終止リアクションに表れ、持続的にピンヒットまで駆け抜けます。

特記事項

話題沸騰中のTurmoil™ ReactiveとGT1に代表されるGearコアとの組み合わせ。先での動きに丸さを感じたボウラーは積極的にポリッシュしましょう。メリハリ感が気持ちよく感じます。